

## 周産期における医療事故 —安全を守る助産師の判断と責任— に参加して

去る2月22日(土)横浜情報文化センター情文ホールにて、4部会合同研修が開催されました。記録的な大雪が残る中、晴天にも恵まれ助産師学生も含む192名と多くの参加がありました。5名の講師による様々な立場から多くの学びを得ることができました。「妊産婦の家族の立場から」は勝村久司先生、「弁護士としての立場から」は松井菜摘先生、「周産期医療事故の損害賠償責任とその対応」は(株)損保ジャパンの大山泰明先生、「産科医療補償制度における原因分析と再発防止」は、岡井崇先生と村上明美先生よりお話がありました。ディスカッションも和やかな雰囲気、発言にもあったように、医師と助産師のコミュニケーション不足の改善ができたかと思えました。今回学んだことを活動する場に生かせるよう努力していきたいと思えます。今後もこの様な研修を期待します。

(記・石川優子)



## かながわ子育てフェスタ —いつもあなたのそばに助産師はいます—

開催日時：平成26年12月6日(土)11時～17時  
開催場所：クィーンズサークル(クィーンズスクエア横浜1階)  
こんなことやります！

- ・池川明先生と青江夏美さんとママたちのお産あれこれトーク
- ・助産師による「御安産一座」
- ・ちびっこジャズダンス
- ・助産師による「よさこいソーラン」「フラダンス」など

盛りだくさん、お楽しみに！



### 「助産師マップ」改訂します！

今年度、新たに助産師マップを改訂致します。会員の皆様のみならず、様々な分野の方々にとって使いやすいマップを提供出来るよう、委員一同頑張っていきますので、ご協力をお願い致します。ご意見、ご要望がありましたら、事務局にご連絡ください。

(広報委員一同)



# ニュースレター

集・発行 神奈川県助産師会 広報委員会 横浜市中区富士見町3-1 総合医療会館6階  
Tel 045(262)4201 Fax 045(348)9020 (受付時間 月～金 9:00～17:00)  
ホームページ kanagawa-josanshi.com メール: office@kanagawa-josanshi.com

## さらなる会員増に向けて

公益社団法人神奈川県助産師会 会長 仲 かよ

神奈川県助産師会も公益社団法人を取得して足かけ3年目となり、日本助産師会より独立した形になりました。戦後、保健婦助産婦看護婦が看護協会という枠に一本化された団体になりましたが、その後開業で働く助産婦が看護協会から独立、日本助産婦会を設立し現在に至っています。

今では助産師の働き方も様々で、分娩を扱う助産所も減っており多様な働き方をしてあります。助産師のこのような働き方に沿った部会を作り、充実した会になるよう努力しております。現在の会員(3月31日)は505名で、内訳をみますと助産所部会81名、保健指導部会93名、勤務部会220名、教務部会28名、不明84名となっております。今年度はさらなる会員増に向けて活動して行きたいと思えます。

## 平成26年度 定時総会の報告

総務理事 青島恵美子



平成26年5月29日、神奈川県総合医療会館にて、定時総会が開催されました。開催に先立ち、会長の挨拶があり、ご来賓の神奈川県看護協会 会長 篠原弘子様、神奈川県看護連盟 会長 奥本信子様、日本助産師会 専務理事 葛西圭子様からご祝辞をいただきました。

総数 505 名に対し353名(出席50名、委任303名)が出席し、「平成25年度 事業報告及び業務監査報告」「平成25年度 収支決算及び会計監査報告」「定款改正」の審議と、理事会で承認を受けた平成26年度事業計画と予算、本部総会の報告があり、審議事項は賛成多数で可決されました。その後、懇親会を開催し、会員相互の交流が図られ、盛会のうちに終了しました。

### ◇ご寄付のお願い◇

神奈川県助産師会の活動にご賛同くださいます皆さまからの温かいご支援をお願いいたします。

【お問い合わせ】

事務局 (045) 262-4201

### ◇事務局◇

2014年6月より受付曜日と時間に変更になりました。

曜日：月～金(祝日を除く)

時間：9:00～17:00

4月より新しく林 晶子が加わりました。よろしくお願いいたします。

### ◇編集後記◇

本紙作成から発送までの経過はまるでお産の経過と似ている気がしてなりません。これからも、より見やすくなる情報発信の場となるよう努力していきたいと思えます。(石川)

## 災害対策委員会

東日本大震災以降、災害時の備えを強く求められ、当会でも平成23年度より各部会から1名ずつ災害対策委員を募り、会立助産院院長とともに委員会を2～3ヵ月に1回開催しています。昨年度は「災害時マニュアル」を完成させました。今年度は神奈川県や横浜市と話し合い、災害時に神奈川県助産師会として何を行うか、会立助産院の活用方法も含め、具体的な活動について決めていく予定です。

## 組織強化委員会

本委員会は、会員相互扶助や会員ネットワークの推進を行い会員増加を図るとともに、会の財源の安定化を目指して活動しています。昨年は本会のパンフレット作成や入会キャンペーンの企画、関連企業や団体への寄付依頼なども行いました。今年度も引き続き、会員増加・会の財源安定化にむけて活動をしていきます。

## 公益事業推進特別委員会

公益社団法人としてさらなる公益事業を推進するため、今年度から公益事業推進特別委員会を立ち上げました。新しい事業のひとつとして、12月6日に「かながわ子育てフェスタ2014～いつもあなたのそばに助産師はいます～」を開催し、子育て支援を行います。

## 産後ケア研修特別委員会

「助産師等が産後ケアに関する知識を深め、質の高いケアができるよう、受講者のニーズを的確に捉えた研修会を開催する」ことを目的に、委員3名で、平成25年10月から活動をしています。

社会の動向や産後ケア事業に携わる方は何を知っておくと良いかを検討し、産後ケアを実施している助産院や施設を見学するなど、常にアンテナを張り、産後ケアの未来を語りながら、研修会の企画・運営をしています。

# 委員会活動紹介

## 倫理委員会

研究倫理審査を受けつけます。

助産師が日頃から取り組んでいる活動について、研究成果として学会等で公表することが推奨されています。昨今では、公表の際に研究倫理審査を受審し、承認されていることが条件づけられていることが多く、助産所や診療所などでは、研究倫理審査の実施体制を有していないためにせっかくの研究成果を公表できないことがあります。

そこで、神奈川県助産師会では平成25年度より倫理委員会を設け、所属機関等で研究倫理審査を受けられない助産師に対して、研究倫理審査を実施する体制を整えました。申請の詳細は神奈川県助産師会HPをご覧ください。

多くの助産師にご活用いただき、日頃の研究成果を広く周知していただけたら幸いです。

## 安全対策委員会

安全対策委員会は平成23年度より、会長・助産所部会長・4部会より各1名と日本助産師会より任命された神奈川県安全対策委員のメンバーで活動しております。活動の目的として「会員の助産業務中の事故を予防し、原因分析を行い、再発防止にむけての安全対策を講じる」を掲げ、①助産所部会の搬送事例の事例検討 ②会員による医療事故やヒヤリハット事例に対する調査および原因分析 ③会員の安全管理に関する注意喚起 ④リスクマネジメント研修会の企画・開催 などを行っています。

## NCPR 特別委員会

本委員会は、出生直前まで予測できない仮死の赤ちゃんを、適切に救命し重篤な障害を少しでも回避できるよう、分娩を取扱う県内全ての施設を対象に新生児蘇生法を浸透させる活動を行っております。2010年11月から神奈川県NCPR講習会監修のもと、年2回新生児蘇生法Bコースをとわ助産院にて開催しており、この6月で9回目を迎えます。

受講生は医師、助産師、看護師、救命救急士、消防隊員、学生等様々です。当日チームを組み、アルゴリズムに沿いながら、蘇生手技や協働作業がスムーズに遂行されるようシナリオ実習をしています。

また、受講後の方対象にフォローアップ研修を年1回開催しています。

ニーズがあれば自施設での研修開催にご協力できるよう委員の派遣も考えております。

こんな活動しています！  
一緒に活動しませんか？

## 特集 妊婦さんの体作り PART3

### 「腰湯のススメ」

伊井助産院 水野素子

スムーズな分娩をすすめる為に腰湯を指導しています。予定日前後の不規則な腹緊のある方に有効です。目的は体を温める事により、冷えを取り除き、血液循環をよくすること。それが子宮の活動を促し、有効な陣痛へと移行していきます。塩を入れる事により、殺菌効果が期待されます。

自分の力で産んだという自信を持って頂けるお産を目指しています。

《方法》

湯船に40度前後、30cmくらいのお湯を張り、食塩500gを入れます。上半身はTシャツを着用し、膝を抱えて座ります。そのまま20～30分腰湯をします。

伊井助産院外観



中田民子院長と筆者

## 広報委員会

広報活動の中心として、メンバー9名、月1回集まり、試行錯誤しながら年2回のニュースレターの発行や会員にお届けする発送作業を行っています。今年は助産師マップ作成のため、会員はもとより、妊産褥婦の皆様や行政、教育機関に活用して頂ける情報誌作成にむけて、頑張っています。